



のびのび若っ子

「為すことによって学ぶ」ことの大切さ

児童支援専任 原田 亮

校庭や若葉台のまちに美しく紫陽花が映える季節となりました。早いもので7月に入ります。

子どもたちは毎日の暑さを感じながら、間近に迫った夏休みを楽しみにしている様子が見られます。

6月11日には、土曜参観に多数の保護者にご来校いただきありがとうございました。まだ予断を許さない情勢の中で、感染症予防の対策でお子様の学校での様子を1時間ずつの参観となったこと、お子様一人に対してご家庭でお一人となってしまったこと、申し訳ありませんでした。子どもたちは参観に来られるのを楽しみにして待ちきれない様子も見られました。7月には個人面談もあります。ぜひ担任と保護者の方がお話をする中で、今後の目標を見つけたり立てたりし、子どもを中心に考えて、学校と家庭がタッグを組んで前に進めるようにしていきたいと思います。

6月10日には今年度に入って2回目のたてわり活動「わかば」がありました。6年生は最高学年として、リーダーとしてグループを引っ張って支えていくために準備を進めていました。「大丈夫?」「わかる?」と6年生がしゃがんで1年生に聞く姿を見ていると、本当に心が晴れやかになります。また、6月20日には4~6年生の代表児童が参加する代表委員会が行われました。司会グループの子が一生懸命進め、参加している子どもたちが支えながらも自分の考えを懸命に伝える姿。このお互いが相手のことを考えて行動しようとする姿勢こそ、「自己肯定感」が高まる活動につながると感じ、これが若葉台小学校のよさなのだと実感しました。

さて、私が研究を進めている特別活動の中では「為すことによって学ぶ」ことを大切にしていこうと考えることがあります。この言葉はアメリカの教育学者デューイの主張「Learning by Doing」を日本語に訳した言葉です。デューイは「人は、経験したことから学ぶことが多い。だから自分の経験したことを基に考えを深めることでさらに成長し、その経験を価値付けていくことを繰り返していくことが重要である。」と唱えています。活動を考えて計画し、実行し、振り返りを行い、次に生かしていく。学校生活の中で考えると、様々な学習や場面で行われています。例えば、生活科や理科の学習の中で植物や生き物を育てること。育てる前は、どんな種子なのか、どうやって生まれてくるのかも分からないことがあります。しかし、興味をもつと事前に調べ、どうやって育てていくとよりよく育つのかを知り、準備を進めて計画を立てていきます。どんなことでも、最初は知らない状態から始まりますが、興味をもち、粘り強く取り組むことで自分の学びとなります。その計画(Plan)、実行(Do)、振り返りや評価(Check)、改善(Action)のサイクルをスパイラル的に行うことで、学びが深まり、次の活動に生かしていこうとする力が養われるのです。

失敗を恐れずに、まずはチャレンジしていこうとする気持ちを大切に学校生活を送れるように支援していきます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にすることを育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』